

広聴特別委員会記録

平成30年1月15日

【開催日】 平成30年1月15日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時50分

【出席委員】

委員長	杉本保喜	副委員長	宮本政志
委員	伊場勇	委員	奥良秀
委員	高松秀樹	委員	中岡英二
委員	中村博行	委員	長谷川知司
委員	藤岡修美	委員	松尾数則
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰		
----	-----	--	--

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

事務局長	中村聡	主査兼庶務調査係長	島津克則
------	-----	-----------	------

【付議事項】

1 議会報告会について

午前10時 開会

杉本保喜委員長 おはようございます。それでは広聴委員会をただいまから開会します。既に協議会の中でいろいろ、どのようなことをやっていこうかということは話をしていますが、ここで改めまして、私たち委員会がこれからどのような形で広聴活動をやっていくかということを皆さんの意見を聞きながら、方向性を定めたいと思います。以前は広報広聴委員会という一つの形があったんですけども、このたびは活動の在り方として広報特別委員会、広聴特別委員会というふうに二つに分かれておりま

す。私たちは広聴部門として、今までの在り方を一つのベースとして、これから、どのような形でやればいいのかということ、改めて皆さんの意見をいただきたいと思います。新人の方からはなかなか意見が出にくいと思いますので、今まで活動された議員の方から今までの所見といただきますか、感想をまず挙げていただきたいと思います。

中村博行委員 今委員長がおっしゃいましたように、今まで議会報告会等々をやってきたんですが、それを踏襲していくのか、それを全く切り替えてやるのか。まずは12月の議会報告会について、どのようにするかを正式にきちんと決めなければならないと思います。また、3月以降、従来は1定例会後には6会場でそれぞれ行っていたんですが、それをどのようにしていくのか。また前回の委員会で一番課題とされておりました市民の皆さんをどのように呼び込むのか。いずれにしても一桁台の参加者ではいけないということ、いろいろと手を尽くしてやったんですけども、それがはっきりとした形で出てきていないという現実がありますので、これをどのように、特に6月、12月の議会報告会についてはどのようにするのかということが今後の課題になってくるといふふうに考えます。ですから、取りあえずは12月を正式にどのようにしていくのか、この辺から決められてはいかがかと思います。

吉永美子委員 これまで行ってきて、広報と広聴が一緒の委員会でしたから、尚更本当にいつも時間に追われていて、こなしているという感じがとても強かったなというふうに思っています。ただ以前の議会とは違って、どんどん市民の前に出て行くという努力をしてきたことは高く評価したいと思っています。その中でこれから新しく議員として入ってくださった方がおられて、この点も私は大変期待をしているんですけども、これまで外で見られていて議会をどう評価されていたのかという点もあると思います。12月という意味ではなくて、議会報告会そのものは、やはり出て行くという意味では行うべきだと思います。しかし協議会でも申し上げましたが、このネーミングということも大事であって、議会報告会という名前自体も、もう一回、より市民に親しみやすいというところを考えると、そういったネーミングから考え、またどのような内容にしていくのか。随分前ですけれども、出させていただいた意見として、6会場にこだわることではなくて、やはり市民が特に関心の高い、そのときの大事なテーマを挙げて小野田1会場、山陽1会場とか、逆に1会場にしてしまうとか、そういった本当により来ていただけるような内容にもっともっと特化した形をしていけたらというふうに思っていま

す。

松尾数則委員 私はそもそも議会改革において議会報告会がどのような意味を持っているのか、やはりもう少し考えておくべきだとはもちろん思っています。と言いますのは、市民が議会というのは何をしているのかよく分からない、その辺のところを知りたいということから議会報告会が始まったのではないかと思っています。そして今まで議会報告会を行ってきた中で、市民の皆様から、これでよく議会が分かったと言われるような意見が多くあったのかどうか。議会報告会を6回もやって、これはすばらしいことですよという議員も、一部の市民もいます。それは事実です。そして他市からも山陽小野田市の議会改革について、いろいろな視察を受けているのも事実ではないかと思っています。それはそれなりに成果があったという意識でありますし、ただ議会の中では基本的に非常に大変だという意識が多いのも事実ですし、その辺を踏まえて、今後どうしていくのかをやはり考えていくべきではないかなという気はしています。

長谷川知司委員 皆さんが言われたことと私も重なるところはありますが、まずは今までの議会報告会をやっていった中では、やはりこなすということ、責任上やらなくてはいけないということに追われてしまっていたということがありました。では来られる方はどうなのか。限られた一部の市民の方が来られていました。幅広く市民に浸透していたかという点、そこまではいっていないし、あくまでも私たち議員の自己満足であったように思います。それで今後どうするか。これは議会基本条例の24条にありますけど、やはり市民に対する説明責任を果たすため、議会で行われた審議内容などを説明する議会報告会を年に2回以上行いますとあります。これでいいのかどうかも含めて今後のやり方は、新たにゼロから考えていっていいと思います。

杉本保喜委員長 それでは高松委員。いろいろと傍聴にも来られていましたので、是非その辺りの意見をお願いします。

高松秀樹委員 皆さんと同じような意見ですけど、非常にマンネリ化をしていて、当初、議会基本条例を作ったときからどんどん後退をしていっているような気がしています。僕は一回見つめ直す必要もあるのかなという気がしています。過去は恐らく拙速に議会報告会を開催していた。言われるように時間に追われて行っていたはずなんですが、今回新人の議員

もたくさんおられて、新しい考え方も含めて議会報告会に導入していけば、市民の皆さんもなかなかおもしろいと言ってくれる可能性もあるのかなと思っていますので、ここで今一度よく考えるべきだというふうに思います。

杉本保喜委員長 今、私たちがやってきた中での意見をいろいろいただきました。それでは新たに議員になられた方たちのほうが、今までのところを振り返ってみて自分たちが議員になって、こうやったほうがいいんじゃないかというような意見等もあると思いますので、それでは新しく今回議員になられた議員の方から意見をいただきたいと思います。

伊場勇委員 議会報告会は恥ずかしながら行ったことはないんですけども、目的として市民に開かれた議会、そして議会の説明責任を果たすというところの目的があるのであれば、それは一人でも多くの市民の方に伝えなければいけない。そこで工夫をするのは、協議会でも話が出たようにテーマを絞ることや、ターゲットを例えば子育て世代に絞って会場を決めて行うであったり、例えばテーマに即した場所で行ってみたり、新しいことをしているというように思えるような企画、立案になると思いますが、そういう工夫した報告会ができれば、市民の方々にも興味を持っていただけるのではないかと思います。

藤岡修美委員 これは協議会でも述べさせていただいたんですけども、市長がやられている市民と語る会と、議員がやられる報告会、例えば市民の皆さんから要望があったことで、それに応える予算というものを議会は持っていないですね。その辺でちょっと弱いのかなという気がしています。例えば市の動きというのでデマンド交通とか、そういった絡みで講師を呼んで、議員もそういうパネルディスカッションの場に立つとか、そういった形で市民と一緒に問題を考えるというか、そういった形なら皆さんテーマによっては案外興味を持って来ていただけるのではないかなという気がしています。それが今までの議会報告会と重なるかと言ったらそうでもないので、新しい形でそういったことを始められたらどうかなというふうに思っています。

奥良秀委員 私も今回初めて当選させていただいて、なおかつ新しい会派の代表もさせていただいて、今回広報広聴を分けるという議運の決定等々も入らせていただいて、分けるということでやらせていただきました。皆さんの意見も聞かせてもらって、私の考えとしましては広聴で議会報告

会ということは、やはり定例議会のことを市民の皆様にお知らせする。これはどうしてもこなし作業になってくるのではないかと思います。それプラス何かしら討論会であったりとか、皆さんが興味のあることをテーマにした雑談であったりとか、そういうことができ、市民の方の意見を組み入れられる議員又は議会が行われれば、また新たに議員としてもビルドアップできるのではないかとはい思います。ただ私も議会報告会は10月1日の選挙がある前の1回しか行ったことがありませんので、内容的には皆さんが言われるとおり、中身がないような、本当に全てがこなしになっているなという印象は受けております。今回このように皆さんと、また一からやり直せばいいかなと思います。

宮本政志副委員長 私はこの報告会について懸念しているのが、例えば報告会に来られる方が少ないということとか、あるいは多忙的なことがあるからというような視点から、この報告会をどうするかということ論を少し懸念しています。やはり報告会というのは必要性から言うと大変大きなものだと思っております。ただ、奥委員もおっしゃったように、報告会だけではなくて、私は市民の方々がいろいろな意見とか、提案とかあるいは問題とかを考えていたり、持っていたりと思うので、そういう市民の方々からの意見を集約する意見交換会も融合させていかないと、報告会というのは議会だよりとか、広報とかホームページとかを通じれば、あらかたのことは情報を取れますから、一方的に報告ばかりしても参加者も増えていかない。どうやったら参加者、住民の方々が多く来ていただけるかというところを考えていくという、その工夫面というところを考えていけばというふうに思っています。

杉本保喜委員長 一通り皆さんの意見をいただきました。それで、先ほど中村委員から話がありましたように、原点に戻って、今まで通例で行われておりました12月議会の報告会、これを今皆さんいろいろと意見をいただいたことを踏まえて、この12月議会の議会報告会をまずどのように決めるかというところで、皆さんの意見をいただきたいと思っております。

中村博行委員 先日もお話ししましたが、前回は改選後ということもあって、新人議員の皆さんもいるということで、通常6会場を3会場にしたということでやりました。協議会の中で今回は特に新人議員の方が多いということもありまして12月議会を見合わせて、3月議会以降どういうふうな形にするかということに取り組んだほうがいいんじゃないかという話が大半だったという気がしております。ただ市民の皆さん

から入った声として紹介したいと思うんですが、12月議会報告会はいつするのか、言いたいことがあるので待っているという方もいたということも、やはり改選があって議会をしっかりと見ておられる方からすれば、改選後の方向性について何らかの議会報告会で意見を言いたいという方もおられたというようなこともあろうかと思えます。ただ先日の協議会の中での大半の意見として3月以降に特に視点を置いて、12月議会、拙速にことを進めてもどうかなという意見については、私もそれに賛同したいというふうに思います。

杉本保喜委員長 そのほか意見はございませんか。ないようですので、それぞれの委員の方から意見をいただいた中でまとめますと、この12月議会の定例の報告会を、今の状態でやった場合にはこなすのが精一杯だという形になる恐れが多分にあるという気持ちを、皆さん持っておられるというふうに私は感じ取っております。皆さんの意見を伺うと、やはり新人の議員の方々が今回は非常に多いということもありまして、広聴活動の在り方をどのようにやっていくかということが、一番問題ではないかなというふうに今感じ取っているわけですが、それともう一つ今までやってきた中で、やはり反省事項が非常に多く、こなすので精一杯だったという意見が非常に多くありました。もう一つは今までのようなやり方だと、改善をする、考えをまとめる時間もないではないかというような意見も、会派のほうからも挙がっているわけですね。そういうことを考えたときに、当面この12月議会の報告会というのは例年見てみますと、大きな内容、これはどうしても特別に報告会を開いて市民の皆さんに知らせなければいけないという事項は余りないんですよ。議会だよりの中である程度知らせることができるというようなこともあるだろうと思います。このたびは皆さんの意見を聞きましたところ、やはり私たちの広聴活動をもう一回しっかりみて、これからどのような形で市民の皆さんの気持ちをこちらに向けてもらって、なおかつ意見にもありましたように、一つのテーマを持って市民との懇談会を開きながら、その中から意見を集めていく。今まで自由意見とか意見交換会は議会報告会の中でもありました。けれど、いかんせん参加される市民の方々が少ない。ひどいときにはゼロの場合もありました。そういうことを振り返ってみて、できるだけ多くの市民の方々が気持ちよく参加していただいて、先ほど言われました議会報告会があるときに言いたいことがあるから、いつやるんだろうかと期待される方々というのは今まで私の経験からみましても、この議会報告会そのものの意見よりは、その後の「皆さん何かほかに意見はありませんか」という中で意見をいただくことが非常に多

かったわけですね。それであれば何も議会報告会という形ではなくて、いろいろな意見が出ました、テーマを持って市民と一緒に話をするとか、高名な講師を呼んでその講師の話を聞いて市民の立場、議員の立場で意見交換会をするというような形があってもいいんじゃないかというような意見も出ておりましたので、そういうような形等を改めて皆さんと協議をしていって、私たちの広聴活動をやっていくという時間をとりたいたいというふうに皆さんは思っておられるというふうに私は解釈をしているわけです。特に異議がなければ、この12月議会の報告会は、今回は取り止めまして、その時間を利用してこれからの広聴活動をどのように具体的にやっていくか、それから議会報告会はこれからのわけではないわけではありません。議会報告会も含めて、これからどのような形で市民の皆さんにさらに興味を持っていただいて、気持ちよく参加していただくような機会、回数、場所、そういうものも含めて話をしていければというふうに私は理解いたしておりますが、皆さんそれでよろしいですか。何か意見等があれば伺いたいと思うのですが、ありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）ではそういうことで、12月議会の議会報告会は取り止めます。そして、その分の時間をしっかりと活用して、私たちの議会広聴活動そのものをどのようにやっていこうということを、改めてこれから話し合っていきたいと思えます。一つ加えさせていただきますと、3月議会の議会報告会はやはり予算も伴うことだし、市長の年頭の方向性等も話が出ますので、そういうことを含めて3月議会の議会報告会はやる必要があるかなと私は思っておりますので、そういうことも含めてこれから改めて私たちの在り方というものを皆さんの意見を集めながら、その方向性を示していきたいと思えます。それでよろしいでしょうか。ではそういうことにいたします。それでは進め方としましては、1月下旬にもう1回、2月に2回ぐらい会合をもちまして、2月末には3月議会の議会報告会の在り方も含めて、これから我々がどのような広聴活動をやっていくということを決定していきたいと思えます。それでよろしいですか。それではこれからの時間は、先ほど皆さんからいろいろな意見を出していただきましたので、さしずめ私たちの広聴活動、何を幹として組んでいくのかという意見をまずは受けたいと思えます。

中村博行委員 その前に、議会基本条例では年に2回以上、議会報告会の要綱では4回というふうになっておりますので、その辺の整合性をきちんとしなければいけないと思うんですよね。そうした中で例えば議会基本条例にのっとって2回以上やるならば、予算と決算、3月議会と9月議会の報告をするということは、そこは避けられないのかな。あるいはそれ

を変更するとすれば、先ほど委員長が言われたように予算は当然しなければいけないと思いますが、決算については、むしろ市民の方からすれば、終わったことを聞いてもというような話がありますので、その辺全部をやり替えるのか、この辺がまず関わってくるのではないかと思いますので、その辺の協議も含めてしたほうがいいんじゃないかというふうには思います。

杉本保喜委員長 中村委員からありましたように、筋としては議会報告会をどの辺りで確実にやる。そして、その間にどういう広聴活動をやるといような意見だろうと思いますけれど、それでよろしいでしょうか。では、それをテーマに皆さんの意見を伺いたいと思います。回数も含めて、先ほどありましたように、予算は絶対にやろうよと。決算については、済んだことだからいいんじゃないかという、今までの議会報告会の中でも、そういう市民もおられたのは確かです。それも含めて、そうじゃないよ、決算は決算として、こういうところが問題点だったんですよということも報告する必要があるんじゃないかというような思いも確かにあったんです。議会基本条例には議会報告会を年2回以上行いますとうたっているわけです。それを踏まえて、これを実行しながら、事を進めていくのかということなんです。

高松秀樹委員 条例は2回以上で、実施要綱が年4回になっています。当時のことを振り返ると、定例会が行われ、定例会には議案が出てくるわけです。私たち議員も定例会に出席しますよね。僕はそれを報告するのは当たり前のことだと思っています。つまり年4回やって当たり前。ただし、今までどおりのやり方では市民側も満足しない。議会側もなかなかうまくいかないという状況なので、そこを見直すべきなのかなと思います。例えば、年4回の定例会後の報告会を年2回にしますという理由が見つからないという気がしています。決算は予算と同様に重要性があると思っておりますので、決算はもちろんしなくてはならない。そのほかの2回の定例会も、僕としてはすべきであるというふうに思います。

杉本保喜委員長 ベースになる意見が出ました。皆さんから、これに対する意見、そうじゃない、こういう意見もあるんじゃないかということ等も承りたいと思います。

藤岡修美委員 高松委員が言われる年4回のノルマというのは課されてしかるべきかなと思うんですけど、過去に皆さんがやられた経過を見ると、参

加がゼロだったり、非常に少なかったりして、特定の市民の方しか見えない。そういう意見の中で、また4回にこだわるのはいかななものかなという気がするんですけど、先ほど皆さんの意見にもありましたけれど、大きなテーマが見出されたときにという話だったと思うので、そんなに年4回にはこだわらなくていいかなと気がするんですけど、これは私の意見です。

高松秀樹委員 年4回の開催と市民の参加者が少ないのは因果関係がないと思っています。市民の出席者が少ないのは、夕方の忙しい時間に出掛けて行って、結局面白くないよねということだと思っんです。市民の方が来やすくなる環境、来て、今日はためになった、身になったという材料を議会が提供しない限り、年1回であろうとも人は少ないと僕は思っています。題材については広聴特別委員会なので、広聴が受け持つのは議会報告会だけではなく、市民懇談会もそうですよね。いろんなツールを議会基本条例上には持っています。そのツールを生かしながらやるのは一つの手です。ただし、藤岡委員が言われましたように、議会報告会において、単に報告するだけというのもちょっと芸がないので、そこは頭を使いながら議会報告会の範疇内ですべきだと僕は思っています。

杉本保喜委員長 そのほかに意見ございませんか。

長谷川知司委員 広聴特別委員会の形からいえば、広聴というのは広く市民からの声を聴くほうがメインです。逆に議会報告会は広報に属するのではないかと私は思っています。広報は議会だよりを出されている。それで議会の中の情報を広報で出しています。だから広聴は逆に市民との意見交換を行う。あるいは政策提言に伴うような意見を聴くということで、名前が議会報告会だから紛らわしいですけど、そういう場を設けることが大事なのではないかなと思っんです。

杉本保喜委員長 広報と広聴の視点というか、力点をどこに置くかという話になるんですけど、確かに言われてみれば、議会報告会といえ、公に報告する広報ではないかという意見も、なるほどなところがあります。今までのところを見たときに、年4回の在り方に、どうもそれをこなすのが精一杯だったという現実的な体験、これもあるという中で、高松委員が言われた4回ということに重きを置かなければいけない。大切なところではないかという意見も、これも然りだと思っんですよね。そういう意見の中で、我々ができる、精一杯やれる範囲の中で、何を、ど

のようにやれば市民の方に興味を持って来ていただけるかというところになると思うんです。確かに今言われましたように、今までの実施の在り方というのは、一部児童館に出向いて議会報告をしながら、若いお母さんの意見を聞いたというような、出前的な活動も実際にやってきているわけです。実績はあります。議会報告会の在り方、市民が来やすい時間帯、場所、そういうものを検討するという手もありますけれども、そういうことを含めて、私たちがこれからどうやっていくかという話になっていくかと思うんです。そういうところで、改めて皆さんの意見をいただきたいと思います。

吉永美子委員 長谷川委員から議会報告会は広報ではないかという話もありましたけれど、どこに重きを置くかというところで、当時やってきたのが報告をして、それに対して質疑、意見をもらい、その後、全体にわたって意見等をいただくという流れをしてきたわけですけど、議会報告会というネーミングは変えるべきだと思っていますが、いずれにしても出て行って広く意見を聴くということは広聴の立場だと思っておりますので、議会報告プラス意見交換という形は、広聴がやっていってもいいのかなというふうに思っています。でなければ、広報委員会に戻したら前と一緒にですから。前は広報広聴で一つになっていて、議会報告会をしないといけない、議会だよりの原稿をチェックしないといけない、それで追われていたんですよ。どういう形にするかは分かりませんが、議会が出て行って、今までで言えば議会報告会になるんですけど、そういった形で、広聴でやっていくという形で、そこにいかに市民から意見をもらうかというところ。私が以前申し上げたこと、協議会で言ったかも分かりませんが、ある地域に行ったときに、「結果はどうでもいいんだよ、終わったことをお知らせされても、その間に、では議会としてどういうふうに審査していったの」と、経過がほしいと言われて、本当にそうだよねと思ったんです。「可決しました」「そうかね」ということになりますよね。いかに議論してきたか、そういったところを市民の代表として、議会の中で市に対して、これはこうじゃないかということをしっかり議論してくれたんだなというところを報告して、意見を聴いていくのが広聴の一つの役目でもあるかなというふうに私は思っています。

長谷川知司委員 私が先ほど言った意図は、吉永さんも言われたんですが、今までの議会報告会は広聴とは趣旨が違うんじゃないかということなんです。要するに意見交換をして意見を聴くことをメインとした議会報告会にすべきだと私は思います。だから今までのように、今までであったこと

を報告して、あと意見を聴くのは、そんなに時間がないから、余りできないですね。それはちょっと逆と思うんです。意見交換会をメインにして、その中でこの議会での目玉を何箇所か言えばいいんじゃないかなと思います。そういう意図です。

杉本保喜委員長 吉永委員が言われた中に、審議の経緯を知りたいという市民の方も確かにいました。経緯の話をする、持ち時間という制限がありますから、思ったように市民に伝わらないというような過去の経緯もあったんですよね。だから、議会報告会の中で市民が納得する経緯を説明しようとするのは、過去何回か議会報告会の中にもあったんです。ところがなかなか伝わらない。市民の思い、力点がそれぞれ違うもので、なかなか難しいなと私も感じているところです。委員が言われたように、その辺のところもなくなってしまえば、本当に議会だよりで終わるじゃないかというようなことにもなりかねないということもあります。長谷川委員から出ました、市民の方たちはその経緯を知りたいということもあるでしょうけど、議会報告会で議員と話す機会があるのだから、私の意見を言いたいというような気持ちで来られる方も多いです。それは長谷川委員が言われるように、後半の意見交換の部分、この辺りに魅力を感じてきているということにもなるわけです。そういうところを踏まえて、どの辺りにウエイトを置きながら広聴活動をやっていけばいいかという話になっていくわけですけど。新しい委員からパネルディスカッション的なことをやってもいいんじゃないかという意見等、斬新な意見も出ていますので。

藤岡修美委員 初心に帰って我が身を振り返るわけではないんですけど、議員になって自分に何が期待されているのかなというのを、逆に皆さんと議論したい。そのときに何か一つテーマがあったらいいんじゃないかなと思います。デマンド交通は、これから大きな問題になってくると思います。いろいろテーマはあると思うんですけど、それを持ち寄られたら、結構面白い方向に行くんじゃないかなという気がしています。

杉本保喜委員長 市民がどんな意見を持ち、どういうところに興味を持っているかというところを把握するというのは、私たち議員の務めでもあります。ただ、市民の意見を吸い上げることは後援会の中でもできるではないかという意見もあります。確かにそれも事実です。皆さん方も後援会に帰って、議会報告会等、意見交換会等を計画し、実施していると思うんです。ただ、自分の支援団体の意見というのは、ほぼ自分の意見に賛

同している方たちの団体ですから、方向性がある程度決まっているんですよね。違う方向性の意見も知りたいなという機会が議会報告会の意見交換の場所でもあるという見方もあると思います。後援会に帰って、自分の意見、自分の支援者の意見を吸い上げるというのは当たり前のことで、それは置いておいて、全般的に議会活動そのものを理解していただき、そして、市民の意見を吸い上げて、どのような形でこれを具現化していくかというようになっていくだろうと思うんです。今までいろいろな意見をいただきました。その中で、どのような形がいいかなという話になっていくんですけど、忌憚のない意見をここに出していただいて、後悔のない、新たな議会広聴活動をやりたいと思いますので、是非意見を出していただきたいと思います。

高松秀樹委員 どういう形がという話でしたが、恐らく全てリニューアルする必要があると思います。それは例えば広報活動、PR活動、チラシから場所、時間、内容、説明方法、全てだと思います。それをしない限り難しいので、一つだけ変えようという話ではない。全てを今から協議して行って、3月議会報告会に向けてやれば良いと僕は思っています。

杉本保喜委員長 全てにおいてリニューアルというのは非常に分かりやすく、個々を考えたときにいろいろな思いがあるので、かなりすり合わせをやっていかないといけないなと思います。皆さんの今までのそれぞれの意見を伺ったところ、全面見直しをする必要があるなという思いが、皆さんあるのではないかなと私は理解しています。それでは、まず分かりやすいところから、今までの議会報告会をもう一度見直して、新たな議会報告会はどういう形がいいんだろうということにテーマを絞って考えていきたいと思います。まず、委員からありましたチラシ、市民に対する知らせ方もいろいろ問題点があるんですが、その前に議会報告会の本体そのものが、どういう形が、一番市民が興味を持ってくれるかなというところから話を進めたいと思うんですけど、いかがですか。これがしっかり固まれば、後は呼び込みですので、広報のあり方、チラシ配置のやり方になっていくわけですけど、まず、本体そのものに興味を持ってくれないことには、幾らチラシを配っても中身がなければ来ないでしょうから、まず、本体についてどのような形がいいでしょうか。我々が活動しながら、その中身をしっかりと詰めていく格好になっていくと思うんです。

高松秀樹委員 委員長が言われることはもっともだと思うのですが、まずPR

活動が先だと思っています。PR活動、要はまず市民の皆さんに議会報告会があるという認識をお持ちの方は何%いらっしゃるのかなというのが一つあります。来てもらったら、次は中身。しっかりした中身を持っていかないと、恐らく皆さんのお知り合いの方でも、行ったことあるけどもう行かないよという方もいらっしゃると思います。それは中身の問題だと思っていますので。ちょっと一歩先の提案をしますと、例えばチラシを作るに当たって、この11人みんなでワーワー言ってチラシを作るのはなかなか現実的ではないと思っていますので、作業部会を作ればいいのかと思います。チラシは3人ぐらいの少人数でやるとか、場所とか時間とかは違う作業部会で、内容は恐らく各常任委員会が作るので、常任委員会に任せておくとうまくいかないのでは、以前のように広聴の人間が行ってこういうふうなプレゼン、こういうふうなパワーポイントを作れという形をやっていかない限り、無理だと思います。その理由は、過去12年見ましてもほぼ進歩がないと思っています。議員の皆さんは分からないと思いますが、普通の人に聞くと、まず説明が分からないとか言葉が難しいとかです。中村委員も言われましたが、自己満足の中でやっているというのもあるので、それをある程度みんながセクトに分かれてやったほうがいいのかと思います。一番大きい核のところは、この委員会の中できちんと決めればいいのかと思いますが、そのほかのところは分かれてやったらどうかと思います。

杉本保喜委員長 今、私が本体をまず見ましようと言ったんですけど、いやいやそうじゃない、やはりPRをして知らしめることからやるべきだという意見を頂きました。それからもう一つ。それぞれの作業部会を作ってしっかりした担当を持って吟味して行って、そして総合的に広聴委員会の中で決めていけばいいのではないかなという意見でした。これについて、皆さんいかがですか。

松尾数則委員 一番いいと思うのですが、今まで過去あれこれやってきまして、再度こういう状況に戻っているということに関して、個人的な意見としては、議会報告会の内容は決して悪い内容ではないと思っています。基本的にこういう形であるなしは別にして、今後とも続けていくべきではないかなという気持ちではおりますが、非常に忙しいという思いをしたのも事実です。議員だからそういうのが当たり前だという意識以上に厳しかったような気がします。今、高松委員が言われたように、部会を設けるなど、その辺のことに労力を割かなくてもできるような内容のものがあれば、それに越したことはないかなという気がしています。

杉本保喜委員長 労力を割かずに効果を上げるというのはなかなか難しいところなのですが、そうなるとやはり効果的な活動ややり方というものになっていくわけですが、では私たち担当の広聴委員会としては、無論やる以上は無駄な動きをする中で成果を上げるのではなく、逆に最小限の努力でもって最大限の効果を上げる。これは活動する中で大きな命題なんですけど、そういうところも踏まえて原点に戻りまして、私が今テーマとして投げ掛けました本体を見ていこうと思います。それから今、高松委員が言われましたように、まずPRをして市民にもっと知らしめて、その上で来ていただいてやっていくというやり方、という二つの意見が出ている（「委員長、それは違います」と呼ぶ者あり）違うんですか。

高松秀樹委員 それはちょっと違ってですね、僕が言いたかったのは内容を非常にいいものにしても、それに伴って人が来るというものではないということです。ですよ。まず知ることが大事なので。だから、先にPRをなささいという話ではなくて、中身は中身でしっかり作っていく必要があると思います。だから、全体的にこの会議の中でやるのは中身とかをやっていくべきだと思います。それと同時にPRをおろそかにすると、まず人が来ないのでPR活動をやっていく。だから、人が来ても中身が駄目だったら駄目じゃないですか。PRが駄目で人が来なくて中身が良くても駄目じゃないですか。だから両方やらなくてはいけないと思っています。それと内容については、議会基本条例に議会報告会がうたっていますので、名称は別にしてもやはり議会報告会ということで報告は必ずあるべきだと思います。それは時間が短時間でもいいですけど、その後が続くものが、藤岡委員が言われるように市民の皆さんが非常に興味のある事項についてやるという形は、非常にいいのではないかなという気はしています。だから、報告を削除しては駄目だと思います。報告の仕方はいろいろあると思いますよ。それをこの中で協議したらいいと思います。

杉本保喜委員 原点に戻っている格好なんですけれども、やはり本体と知らしめる広報、PRですね、この両立は非常に重要なものであるという話なんですけど。若干休憩し、もう一回それぞれ皆さん頭の整理をしていただいて、改めて委員会を開きたいと思います。それでは次の開会を11時10分から開会したいと思いますので、休憩いたします。

午前 1 1 時 休憩

午前 1 1 時 1 0 分 再開

杉本保喜委員長 それでは休憩を解きまして、ただいまから会議を再開いたします。それでは先ほどお話がいろいろ出ました。今日特別に何を決めようというところまではなかなか行かないと思うんです。ただし、方向性はある程度見出したいと思しますので、そのつもりで意見等を承りたいと思います。まず今私たちが方向性として進めているところは、議会報告会の在り方そのものと、それからどのように市民に知らしめればいかなという話になっていくんですけども、まず今までの議会報告会の在り方というのは、3チーム編成をして6会場で各2会場ずつ担当して回っていました。各常任委員会からそれぞれ報告者を出していただくということ、司会者、記録係、受付とマイク、こういうような役割で報告会を進めてきております。最初に常任委員会のほうから、若しくは特別委員会のほうから報告をしていただいて、持ち時間が大体5分から10分、そういうような形で進めています。それからその後にそれぞれの常任委員会の報告の後に質疑応答という形をとっております。それから最後に自由意見というか、市民から意見を承りますというような形でやってきております。その報告会が終わった後に各担当チームが事後研究会をして、報告文書を出していただいて、任務完了という格好になっております。そういうような進め方で今までやっているわけです。今度はPRのほうはどういうふうに行っているかということ、議会報告会を行いますよということで、A3ぐらいの大きなチラシというか、掲示する形のポスター的な形でもって知らしております。中身は日にちと場所とそれから担当の委員の名前、そういうものを組み込んだそれを公民館とか自治会館、それぞれ議員の自分が知らせたいなと思うところに貼っていただく。それとは別にまた何十部か印刷して、それを各議員が思うところに配布してもらうというようなこと等が今実施されているわけですね。ある自治会のところは自治会長にお願いをして、「これを回覧してくれないか」というような地区もあります。それから逆に自治会長のほうから「こんなのお断りだ」と言われている自治会も実際にあります。そういうところは議員のほうで思うところをお願いをして、知らせてもらっているというのが現状だということですよ。そういうような現状を踏まえて、これからどういうふうに行っていけばいいかなという意見を

頂きたいと思います。時間はどうなのかというと、時間は約1時間30分取っております。夜は19時から始めて、20時半に終わることをめどにやってきております。けれども中には「時間を制限されたって、俺は物を言えないよ」というようなことがあって、多少意見があるようであれば、延長いたしますということで、一番長いところで21時頃までやった実績もあります。それは何の時間をそれだけ取ったかということ、各市民からの意見を吸い上げるために市民の方たちが自由に意見を言うていただくという環境づくりの中で30分延長というような実績が過去あります。それぞれの担当の人たちはいつから準備をしているかというと、50分ぐらい前に、例えば夜やるのであれば18時10分ぐらいに集まって、会場設定をして、必要ならばリハーサルをやって、準備をする。中には市民の方で30分も前から来られる方もいらっしゃいます。準備はすぐできるから、30分ぐらいでいいんじゃないのという意見も過去出ていました。ところが市民の方たちが早めに来られて、待たせるのもどうかということ、今の時点では45分から50分前に来て、準備をしているというのが現状です。今私が現状をいろいろ話しましたけれども、そういうことも含めて、まず報告会本体そのものをどういう形でやるかということですが、いかがですかね。なかなか新人の議員の方たちから意見を出しにくいと思いますので、今まで経験をされてきた議員の方たちから一つのたたき台として意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

長谷川知司委員 先ほども申したんですけど、今までのパターンを全く無視していいと思うんですね。だから報告はしないといけないというのは分かるんですが、それも審議内容で主に問題となったところを報告するというような形にして、逆にあとは市民との交流をメインに考えていったほうがいいかなと思います。というのは例えば2年ぐらい前に未就園児のお母さん方のところに出掛けて行って、各児童館とかでお話を聞いたことがございます。このときやっぱり膝を突き合わせて話すとお母さん方も結構話していただいて、私たちの気が付かない面を結構教えていただいたんですね。そういうように出掛けて行って、来るのを待つというんじゃないで、いろんな団体にも出ていくということも一つの方法だと思います。それからまた先ほどPRという問題も言われましたけど、今までは市の自治連など、ほかの団体との連携が余りうまくいってなかったので、このたびはそういう団体との連携を取ることで、PRが少しでも増えればと思っております。

吉永美子委員 いかにかくさんの方に来ていただくかという努力という部分では、私も完璧にできたわけでは全くないんですけども、当時の委員会でも話をさせていただきましたが、私は埴生に住んでいますので、埴生公民館等で行われる行事のときにチラシを持って行って、時間があればこういうことやりますので、是非御参加くださいということの話をさせてもらったりしました。埴生地区の防災訓練でもお話をさせてもらったりして、だからイコール参加者がぼんと増えるということはありませんでした。だけど私はやっていること自体を知らない市民もまだたくさんいるなというふうに思ったので、やっているんですという、是非来てくださいという投げ掛けを、努力をもっともつとしないといけないと思いましたし、埴生公民館で行われた会議と埴生地区のセーフティネットの防災訓練でお話しさせてもらって、それでその後の議会報告会でたった一人だけでしたけど、男性の方が「これでよかったかね」と言われたということは聞いて来てくれたんだなというふうに思いました。ですからこちらから出て行く、そういったいろんなところにチラシを持って行って、かなえばお話をさせていただくということ、自発的にやっていくべきではないかというふうに思っています。私は埴生公民館に行って、いついつこういう会議がありますよということをお話してもらって、それで責任者の方をお願いをして、それで「少し時間ください、お話をさせてください」と言って、チラシを持って行ってさせてもらったりしています。そういったことがもっといろんな場でできていくと、もっともっと知っていただく機会になるのではないかなと思うんですけどもいかがでしょうか。

中村博行委員 今までもそれなりの努力はしてきたというふうに私も自負しているんですけども、先ほど長谷川委員がおっしゃったように全く変えていく。従来であれば総務、民福、産建、特別委員会で報告がされてきたんですけども、そしたらその中でどれをピックアップしていくかということになるかと思うんですね。全部するんじゃない。あとの意見交換会の時間を取るとなれば、そういうことから入らないといけないというふうには思います。どれを取り上げるかというのはここで決めていいかとは思いますが、そういった各委員会から項目を一つずつ挙げてもらって、その中でどれを取り上げるというような形で、意見交換会の時間を当然取れると思います。ですから内容としては、先ほど高松委員のほうから言われましたように報告をしなければいけない、一件、二件なりとも。それをするのであればそういう方法しかないのかなと思います。あと1番大事なところは結局ずっと課題でありました、どのよう

にして市民の参加を増やしていくかということ、今吉永委員がおっしゃったように地域イベント等で前もって、ポスターなりを配布するというのも一つの方法だと思います。ただ私が今までやった経験で、地域の自治会連合会長にお願いをして、快く「よし、わしが全部コピーしよう」ということで各自治会長に配っていただいたら、地域の中で、こういうことで議会が自治会を使ってどうするのかというような意見もあったわけですね。そうするとその地域の自治会長がびびってしまって「もう二度とこういうのは怒られるのなりません」というようなことも実際にはあったわけですね。ですから自治会をどういうふうに使おうということも大事な事かとは思いますが。周知方法というか、市民にどういうふうに参加いただくかということが、ずっと大きな課題でしたけど、そういう意味では各団体に声を掛ける。例えば女性会とか、いろいろな団体があると思いますけども、商工会議所には、むしろ市民懇談会で小野田のほうも呼ばれたこともありますし、今回厚狭のほうもそういった形がありますので、そういった形以外の団体ですね。そういったものに声を掛けていくという方法もあろうかというふうには思います。

杉本保喜委員長 PRの方法、PRの在り方というところで、今意見がいろいろ出ました。確かに初っ端、この議会報告会をやりますということで、自治連等をお願いをしたときに、自治連としては積極的にやりませんよというような話が出たのも事実でございます。先ほど吉永委員のほうから出ていましたように各議員の方たちが自分たちの地域の行事等見て、そこでPRに努めるという方法も一つの在り方だろうとも思います。そうすると、さっきのように自治会回覧ということで一方的な形でやって、後でいろいろ言われるというような意見は多分出ないであろうと思いますよね。ただ一つ冷静に考えてみますと、自治会回覧の中には警察の警察だより、小学校の便り、中学校の便り、公の便りというのはもう出ているわけですね。その中に議会だよりレベルで、議会報告会のお知らせというのが入っても何ら違和感はないと私は思うんですけど、それぞれの自治会長の思いもあるんでしょうけれど、それを払拭するには地域の議員の人たちが、そこでこういうことで皆に知らせたいんですよということで、話をして理解をいただくというようなことにもなっていくかなというふうには思うんですよね。一つ今の話の中で見ますと、チラシそのものの在り方というのは今までの形でいいのかどうか、もっとこういうやり方、こういうパターンがあるんじゃないかというようなこと等もあるんですよね。その辺りはいかがですかね。

吉永美子委員 以前この委員会で出された資料で、それを見られていたのか、新しい議員さんが言われたチラシ自体が総務とか民生とか産建とか意味が分からないという意見とかありましたけども、このチラシ改めて見て、やっぱり議会報告会という名前自体、議会が報告するのであって、「あなたたち聞く側よ」というイメージを持たれかねないなというふうに思います。報告の後、参加の皆さんとの質疑を行いますとありますけど、先ほど申しあげましたけど、ネーミングはとっても大事で、やっぱりこのところに議会報告会じゃなくて、市民という言葉を入れるべきじゃないかなと思うんですよ。例えば市民と議会との語る会とか、何か市民というのを入れて、当然議会は報告をするんですけど、そのネーミングのところからも考えてみるべきではないかというふうに思っています。リニューアルの一つの大きなポイントになるんじゃないかと思うんですけども、皆さんのお考えをお聞きしたいと思います。

奥良秀委員 吉永委員が言われるとおりでと思います。やはり議会報告会ということになると、どうしてもネクタイ締めて、ちゃんとした格好で行かなくてはいけないという印象は受けます。やはり皆さんがざっくばらんに普段着で来て、質疑応答じゃないですけど、收拾がつかないこともあるかもしれませんが、雑談ができるような会のほうが、いろんな意見が出るんじゃないかなと私も思います。またそういう会の内容でも、やはり議員が報告したい内容と、市民の皆さんが知りたい内容というのは少なからず温度差は間違いなくあるでしょうし、議員がこれだけ僕たちは頑張ってるよとやっているよということと、市民の人がこういうふうなお金の使い方はやめてほしいよという思いが多分全然違うと思います。委員長が休憩前に言われた後援会とか支援団体と、一般市民とはまたイコールじゃないと思うんですよね。だから議員というものはそれにとらわれずに山陽小野田市全体を考えて、物事を考えていかなければいけないので、そういったこともきちんと項目でうたわれていますので、そういったところは訂正していただいて、広く誰でも来られる会を目指していかれたほうがいいと思います。だから、やはりネームの変更は必要と思います。

宮本政志副委員長 私も吉永委員がおっしゃった名前を変えていこうということは賛成です。やはりPRを重視して、PRもうまくいった、内容も物すごく充実してきた。ところが名前がやはり議会報告会という以前の名称でいくと、中身が変わったということも伝わらない可能性もありますし、ネーミングを変えていきたいなという気持ちはあります。それとや

はり6月、9月、12月という先のこともいいんですけど、まずはできれば目の前、3月議会報告会はするというふうに先ほど決まったのであれば3月議会報告会をどうしていこうか、それからその3月に向けて変えていけるべきところは変えていこうじゃないかというところで、ネーミングはできれば変えて、3月に取り組んでいただいて、余り長い先の話を決めようと思っても難しいので、できれば目の前の一番直近の3月の議会報告会、これを視野に入れながら名前を変えていくという方向性も検討していただきたいと思っております。

杉本保喜委員長　ネーミングを検討する必要があるよという意見が多く出ましたけど、今のままでいいんじゃないのという意見がありましたら、伺いたいと思うんですけどもいかがでしょうか。

高松秀樹委員　変えたらいいと思いますよ、言われるとおりですよ。恐らく、市民の皆さんもなかなか突つきにくいと思っていらっしゃるの、チラシを見たときに恐らく議会報告会という文字と、作り方の問題で非常にインパクトもない、魅力もないような形にもなっている。しょうがないんですけど。今回そこを見直そうという話なので、そういう名前も含めて、もう少し「これちょっと変わっているよね」という形でもできれば、人の興味も誘うし、認知度も上がると思っています。チラシを作ったからといって、急速に参加人数が増えると思ってないです。先ほど自治会便の話がありましたけど、実は先日、高千帆中学校で中学校区だから高泊、高千帆、有帆と全戸配布であるボランティア募集送ったんです。来られたのが2名だったんです。つまり送ったからといって来ないんですけど、やっぱり手元にあると、こういうのをやっているんだねというのが分かるので、議会側もしっかり皆さんに知っていただくということ、それプラスアルファで来ていただけるということを考えて、ネーミング、そしてチラシの刷新をしたほうが僕はいいというふうに思っています。

杉本保喜委員長　反対意見かと思ったら賛成意見が出ましたですけど。

中岡英二委員　私もネーミングを変えるということには賛成です。しかし、その報告会の進め方ですよ。前回、吉永委員が言われたことがあるんですけど、報告会で出た内容の回答ですよ。どういうふうに話し合っ、このような回答が出たというのを、仮にその会に来られてなくても、前回の方が来られていなくても、そういう報告をまず、前回こういう意見

が出た、市民の方の要望があったこととそれへの答えですよ。今実際答えが出なくてもこういう話合いをしておりますという報告を第一にされて、それから議会の報告というか、市民との話合いというか、そういうのをされていったほうがいいと思います。やはり期待というのはされていると思うんですよ。前回話したことをどういうふうな話をされているのか、どういうふうな答えが出るのか、やはりそれをまず初めにもってきて、そこから入っていくほうが、私は地道にそういう来られる方を増やしていく方法の一つだと思います。

杉本保喜委員長 実はフィードバックのシステムというのではないわけではなかったんです。過去にも意見をいただいて、その意見がその地区だけのものか、それから全般的なものかということ委員会を検討して、そして回答の雛形というか、そういうものを担当者が作って、それを皆で了解して、個人だけでいいようであれば個人に回答するし、それから今言われたように、次の報告会の際に前回の報告会の中でこういう意見が出ていました、これについてはこういう回答ですということをやった経緯もございます。ただ、それが定例化というか、そういうことだよということにはまだなっていないかなとも思います。けれども今言われた意見の中で、今回これから本体そのものを仮に議会報告会として、その報告会の中であった質問等については、これからはっきりどういう形でしゃくをして、議会としてはどういう意見、また必要であれば行政のほうにこういう形で投げ掛けましたという報告をするという一つのパターンというものを決めていくものも必要ではないかと思うんですよ。それを決めないと、なかなかこれはいいかというような格好でおざなりにするわけにもいかないの、そういうことも含めてこれからしっかり組み上げていく必要があるかなというふう思っております。それで原点に戻りまして、今ネーミングの話が出たんですけれど、全体としてはこのネーミングを考える必要があるよねということ、うちの会ではその方向でよろしいですか（「はい」と呼ぶ者あり）それでは今ここで何をしようといってもなかなか決まりにくいと思いますので、会派等に持ち帰って今の議会報告会、いや中身によるよということとは別に、とにかく市民に受け入れられやすい、そういう名前を決めようじゃないかという方向性として、皆さん持ち帰って検討していただいて、次の会議のときに、今月末ぐらいに皆さんの都合を聞いて会議の機会をまた設けますけれども、そのときに皆さんの意見として持ち寄って決めればなと思いますが、それでよろしいですか（「はい」と呼ぶ者あり）ではネーミングについてはそういうことにいたしましょう。次に、本体そのものをどのよ

うにするかというのは、なかなかちょっとの時間では決まりにくいと思うんですよね。それから各会派でもいろいろな意見があると思うんですよ。皆さんそれぞれ持ち帰っていただいて、現状をしっかりと分析した上で、こういう形で行こうよという意見を次回是非出していただいて、今回はこの会そのものの在り方、それからもう一つ、時間配分、つまり所要時間は今1時間半というものを前提にしてやってきています。意見交換の中で非常に意見が多いということであれば、延長していいというのが今の形でございます。それを踏襲するのかということなんですね。やはり8時半以降というのは一般の人たちもきつところもあるだろうから、やはりしっかりとそこは1時間半という一つの枠を決めて皆から意見を吸い上げるとか、今までアンケートの中に自由意見というのがあるんですね。その中に時間がなければ書いてくださいというようなことも過去やってきています。だからそれを一つのやり方として1時間半という時間というものをしっかりと決めていくということにするのかどうか。それから、重点的に報告というものを皆で決めていってやっていくという方法をとるのかというようなこと等を含めて、会そのものの中身を次回はしっかりと吟味していきたいというふうに思います。それからもう一つ、今チラシでやっていることについて皆さんの意見が出ました。チラシの中身等も含め、どのようにやっていけばいいかというところを、是非会派等に持ち帰り、今回はそこも含めて、ある程度方向性を決めていきたいなというふうに思います。

吉永美子委員 今いろいろ言われましたけれども、会派に持ち帰って話をしてくれということであれば、フォーマットを作って、このことについての会派の意見というのを作るということをして、皆が同じ形で出てくるようにされたほうがいいと思いますよ。先ほど言われた時間がこれまでこれだった、今後どうするかとか、そういったものを作って会派に紙を渡したほうがよくないですか。

杉本保喜委員長 分かりました。紙を渡すとなるとまた時間的なものがありますから、メールでもって知らせるという形はいかがですか。

吉永美子委員 メールでもなんでも一緒に、要は形を作って、このことについての会派の考え、だからネーミングについてどう考えるか、今の議会報告会で委員会の中では変更という話が出たけど、会派から出られているからそこまで書かなくてもいいんでしょうけど、ネーミングについてとか、時間配分についてとか、紙で書かれて、それについて会派から持っ

て帰ってきたほうが、より活発に議論ができると思いますので、それぞれに受けて帰るんじゃないくて、こちらが発信をしていくことが大事だと思います。

杉本保喜委員長　そういうことなんですけど、では確実性をきすために、そういう形で事務局から、今言ったような検討事項をメールでお送りしますので、メールでお送りできないところは文書でもって送付したいと思います。それでよろしいですか。次回の検討項目はある程度明確になったと思うんですけど、そのほかにこの辺は検討しておく必要があるんじゃないかということがございましたらどうぞ。

高松秀樹委員　リニューアルと言ったので全て検討し直すという意味かなと思っています。例えば現状、議会報告会のときに議員は何人壇上に出ていますか。6人、7人ぐらい来ているでしょ。果たしてその人数がいいのか。それで傍聴議員を認めているでしょ。傍聴議員は市民目線からいうと非常に威圧感があるという意見もあります。つまり、そういうところを全部見直す必要があるのかなと思います。場所も今は6会場やっていますが、吉永委員が言われるように大きなところ1会場でいいんじゃないですかという意見もあると思います。そういうところも含めて、果たして何がいいのかというのを次に持ってくるのであれば一覧表という話があったので、そういうのも含めて書けるところまで書いていただいて、なぜかと言うと、新しい議員は分からない部分がありますよね。また一からの議論をされるよりかはある程度会派の中で話をしたほうがいいと思いますので、そういう形で一覧を作っていたいただければと思います。

杉本保喜委員長　分かりました。

高松秀樹委員　委員長は大変でしょうけど、お願いします。

杉本保喜委員長　非常にレパトリー広くということになるんですけど、確かに委員が言われたようにそれぞれの重要な項目ではあります。ただ一つ、これが全て次回、皆さん意見を持ち寄って方向性が定まれば、本当に次の中身がもっと深いところまで審議ができるというふうに思いますので、是非そういう形で意見をいただきたいと思います。その検討事項の最後に自由意見を求める部分を加えたいと思いますので、その中でこの項目以外にもこういうところが私たちはこういうふうに思いますよということも含めて出していただきたいと思います。ではまず次回はいつがい

いかということなんですけど、1月26日10時からやりたいと思います。それまでにこちらからメール等で出しますので、事前に出してもらうのではなくて、皆さんが回答しやすいような形で手元にそれを置いていただいて、意見を出していただくという形でよろしいですか。そうしないと事前に出していただくとなると、またその分事前に意見を聞いて回らなくてはいけないだろうし、時間を見つけるのはなかなか難しくなるだろうなどはと思いますが、よろしいですか（「はい」と呼ぶ者あり）ではそういうところで次回の会議の時には皆さんの手元にそういう意見を持って回答をいただき、審議していただくという形にしたいと思います。

中村博行委員 今まで使っていたアンケート用紙の項目、それと配布したチラシ、これも一緒にメールに付けてもらったほうが、新人議員の参考にはなるのではないかと思います。

杉本保喜委員 分かりました。それでは先ほどの検討事項プラス、議会報告会の際に各市民の方々にアンケート用紙を配っているわけですね。そのアンケート用紙の項目等も事前に知っていただければ、また検討の仕方も変わってくるかなと思いますので、それを付け加えておきますので、参考にしてください。それからついでにそのアンケートの在り方はこういう問い方もあるんじゃないのかということ、また意見の中にそれをいただくということでもしたいと思いますので、お願いいたします。それでは長きにわたりましたがともそういう方向性として、次回は26日金曜日10時から委員会を開きたいと思います。以上で会を閉じたいと思います。どうも皆さんお疲れ様でした。

午前11時50分 散会

平成30年1月15日

広聴特別委員会委員長 杉 本 保 喜